

入選

やさしい世界に

秋田県 大湯小学校 四年

石川 真衣

わたしは、自分から声をかけることが苦手です。小学校に入学するとき、とても楽しみなワクワクする気持ちと、少しだけドキドキする不安な気持ちがあったことを今でも覚えています。

初めて学童クラブに行くことになった日の朝は、「どうしよう」と心配な気持ちでした。でも、学校でも学童クラブでも、声をかけてくれた人がいて、すごくホッとしたし、うれしかった経験があります。そのとき、声をかけてくれた人とは、今でも仲良しで大好きな友達です。

今年わたしは、4年生になりました。学級の友達も、係の仕事を手伝ってくれたり、委員会の仕事を忘れていたときには、5年生が教えに来てくれたりします。百人一首クラブの活動では、先ばい方がやり方を教えてくれ、休み時間にはいっしょにバスケットをするときもあります。

このように、ふだんは、何気なくすごしているけれど、学校生活の中だけでも、やさしさがたくさんあふれています。わたしもその友達のように、自分から声をかけられる人になりたい、といつも思っています。でも、実際にはそんなにすぐにはできません。

この前、お母さんとお兄ちゃんと買い物に行ったとき、駐車場でカギを拾いました。そこでお母さんが、

「お店の人にとどけてきて。」

と言いましたが、わたしはすぐにとどけに行くことができませんでした。そうしている間に、お兄ちゃんがお店の中へカギを持って行ってくれました。わたしは、なんですぐにとどけに行くことができなかったのか考えてみました。

その日は暑くて、わたしは早く家に帰りたかったし、わざわざお店にもどってカギをとどけることを面倒くさいと感じました。でも、すぐにお店の人にとどけることができたお兄ちゃんはずごいし、そんなお兄ちゃんのことをうらやましくも思いました。

自分がとどけることができたらと後悔しました。なぜかという、カギをなくした人のことを考えたからです。その人は、困っていると思います。早く持ち主のところへとどいてほしいなあ、と思いました。

自分の気持ちを優先して考えていたときは、面倒くさかったことが、他の人の気持ちを考えたら、面倒ではなくなりました。そのことがわかってからは、なにか行動しなければならぬときには、自分のことだけでなく、ほかの人のことも、と広く大きく考えてみようと思います。

そうすることができれば、わたしも自分から困っている人や一人での友達、初めて話す人にも声をかけることができるような気がします。

みんなが自分のことだけではなく、他のだれかの気持ちを考えて行動できるようになれば、わたしの通っている学校も、住んでいる町も、もっと住みやすくなって、テレビに映る悲しいニュースもなくなると思います。

そんなやさしい世界になればいいなあ、とわたしは思います。